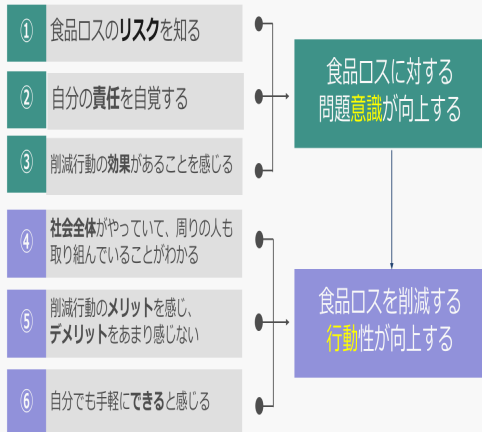


食と環境の学びとSDGs

家庭選修 教授 石島 恵美子

どのようなことを学びと食品ロス削減行動を促すのか

食品ロス削減行動を促進させる心理モデル



※本図は(1994) 環境行動変容の心理モデル、石島(2019) 食品ロス削減行動の促進要因を参考に作成

今、なぜ食と環境の学びが必要なのか？

近年、食と環境に関する課題が顕在化しています。これらはSDGsに代表される地球規模の課題と密接に関連しています。具体的には、“食料自給率”、“フェアトレード”、“フードマイレージ”、“バーチャルウォーター”、“食品ロス”などです。ほぼ全ての人々が、日常的に食に関わる消費活動を行うことから、個人の環境配慮行動が、地球環境への貢献となり得ます。そのため、食と環境に関する課題に取り組み問題解決を行うことは現代社会において必要不可欠なことなのです。

食と環境を学ぶプログラムの開発

《プログラムの内容の研究》

①食品ロス ②フェアトレード ③郷土料理

⑤⑥自分でも簡単にできて、お得に思う 過剰除去を防ぐ
クイズ なすはどこまで食べられるでしょう？



《プログラムの学習方法の研究》

問題解決型調理実習



食品ロスを出さない調理法を考えて調理する

文部科学省科学研究費補助金を
受けています！

食と環境を学ぶプログラムの研究をし、
家庭科の先生に研修会をしています。



《研究題目》科学研究費補助金基盤研究C
・消費者市民を育む高校家庭科調理実習カリキュラムの開発：食品ロスに着目して（19K02777）
・消費者市民を育む問題解決型調理実習に関する家庭科教師教育プログラムの構築（22K02226）
・日本とスイスのエシカル消費の規定因に基づく消費者教育プログラムの開発（24K05579）

学生たちの
Challenge 家庭科の力で社会課題の解決を！
2023年度教育学部家庭科選修iopプログラム

茨城大学内で
子ども食堂を実施！



茨城大学ホームページ
<https://www.ibaraki.ac.jp/news/2023/12/07012189.html>

地域課題解決！
干し芋残渣削減の研究活動



はしっぽSDGs講演会

星平モンブラン

